

Course number		U-LAS70 10001 SJ50							
Course title (and course title in English)		ILASセミナー：ヨーロッパ近現代史入門 ILAS Seminar :Introduction to Studies in Modern and Contemporary European History		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor,FUKUMOTO KENSHI			
Group		Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits		2	Number of weekly time blocks	1	
Class style		seminar (Face-to-face course)		Year/semesters		2025・First semester		Quota (Freshman)	6 (5)
Target year		Mainly 1st year students		Eligible students		For all majors		Days and periods	Tue.5
Classroom		Seminar room 21, ILAS Bldg.					Language of instruction		Japanese
Keyword		ヨーロッパ史およびアメリカ史関連 / 近代史 / 現代史 / ウクライナ							
( Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department. )									
[Overview and purpose of the course]									
<p>本演習では、ヨーロッパ近現代史に関する文献の精読と、それを踏まえた研究発表を行う。</p> <p>今年度のテキストは、黛秋津編『講義 ウクライナの歴史』山川出版社、2023年とする。2022年2月以降に新たな展開をみせているロシアとウクライナの戦争をきっかけに、ウクライナの歴史について論じる良質な文献が増えており、当該テキストもその一つである。中世の時代からはじまり、現代史にまで至る幅広い射程を持つと同時に、執筆者それぞれの専門性が生かされている。本書を通読することによって、受講者は、歴史に関する知識を深められると同時に、ナショナリズムや民族といった複雑な概念に関する理解もえられるであろう。</p> <p>演習の進め方としては、毎週一章ずつ読み進め、担当者はレジュメを作成し、それを基に出席者で議論する。</p> <p>本書を読み終わった後は、各自でテキストに関連するテーマを決め、発展的な研究発表を行う。そのためにテキストを読みつつ、自発的に図書館で調べものをし、最終的には発表にまとめることも同時に取り組むことになる。</p>									
[Course objectives]									
西洋近現代史に関する文献の精読と討論を通じて、研究に必要な知識や方法論の基礎を身につけ、また自らの考えを言語化できるようになる。									
[Course schedule and contents]									
授業回数はフィードバックを含めて全15回とする。									
1．イントロダクション									
2．第一講「概論ウクライナの歴史」（黛秋津）を読む									
3．第二講「キエフ・ルーシ」（三浦清美）を読む									
4．第三講「リトアニア・ポーランド支配の時代」（小山哲）を読む									
5．第四講「帝国支配の時代」（青島陽子）を読む									
-----									
Continue to ILASセミナー：ヨーロッパ近現代史入門(2)									

## ILASセミナー：ヨーロッパ近現代史入門(2)

- 6．第五講「ウクライナ・ナショナリズムと帝国の崩壊」（村田優樹）を読む
- 7．第六講「ウクライナにおけるユダヤ人の歴史」（鶴見太郎）を読む
- 8．第七講「ソ連時代のウクライナ」（池田嘉郎）を読む
- 9．第八講「ウクライナとロシアの歴史認識問題」（浜由樹子）を読む
- 10．第九講「ウクライナの正教会と分裂の歴史」（高橋沙奈美）を読む
- 11．第一〇講「ウクライナの家国建設の挫折」（松里公孝）を読む
- 12．第一一講「ロシア・ウクライナ戦争と歴史的観点」（山脇博史）を読む
- 13．研究発表
- 14．研究発表 および総括
- 15．フィードバック

### [Course requirements]

None

### [Evaluation methods and policy]

報告の内容、演習中の発言をもとに、平常点で評価する。詳細は初回授業で説明する。

### [Textbooks]

黛秋津『講義 ウクライナの歴史』（山川出版社, 2023）ISBN:9784634152359

### [Study outside of class (preparation and review)]

毎回、テキストの決められた範囲を読み、出席することが前提となる。報告担当者は、レジュメを作成し、それに基づいて報告を行う。他の出席者からの質問に答えられるように、分からないところも調べてくることも求められる。

また、テキストを読み終わった後の研究発表のために図書館で調べものをしたりすることも必要となる。

### [Other information (office hours, etc.)]